

ガソリン携行缶 取扱説明書

裏面の「取り扱いガイド」もお読みください

KHK 認証取得

**消防法適合品
火気厳禁**
第四類 第一石油類 危険等級Ⅱ

この度は、ガソリン携行缶をお買い求めいただきましてありがとうございます。この「取扱説明書」はガソリン携行缶を安全にご使用いただく為のガイドブックです。弊社製ガソリン携行缶を初めてお使いいただく方はもちろん、すでにご使用になられた経験をお持ちの方にも、知識や操作方法を再確認する上でお役に立つものと考えております。この「取扱説明書」を最後までよくお読みになり、内容を理解された上で正しくご使用くださいますようお願い致します。又、常にこの「取扱説明書」をお手元に置かれて作業されることをお勧め致します。
※この取扱説明書に記載されているイラストはイメージです。実際の製品とは異なる場合があります。

重要

ガソリンは揮発性の高い危険物です。下記の要綱は必ず守ってください。また、変形したガソリン携行缶は、安全上の理由により使用しないでください。

警告 重要

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡又は重傷を負う可能性が想定される内容、及び物的（車両等）損害の発生も想定される内容を示しています。

- ガソリン携行缶には、規定容量以上のガソリンを入れしないでください。
- ガソリン携行缶は、給油口が上向きになるように常に平らな場所に置いてください。
- ガソリン漏れ防止の為、キャップ、エア調整ネジは最後まで確実に締め付けてください。
- ガソリン携行缶には、ガソリン、軽油、灯油、混合油等（第四類 第一石油類 危険等級Ⅱ）以外の物は入れないでください。缶内部が錆びる恐れがあります。
- キャップをはずす時は、ガソリン携行缶を上向きに平らな場所に置いてから、先ずエア調整ネジをゆるめ、ガソリン携行缶内の圧力を調整してからキャップをゆるめ、中のガソリンがこぼれないことを確認してください。
- ガソリン携行缶を携帯、移動した場合には、先ずエア調整ネジをゆるめ、ガソリン携行缶内の圧力を調整してから、再びエア調整ネジを確実に締め付けてください。
- キャップ、給油ノズルのパッキンが劣化したり、破損した場合には、ガソリン漏れの危険がありますので、部品を交換してください。
- 本製品を使用する前に「キャップ、給油ノズル、エア調整ネジ等」確実に脱着できるか必ず確認してください。不具合があった場合はただちに使用を中止してください。

- ガソリンの長期保管は変形・亀裂・缶の内部が錆びる原因になります。変形・亀裂・錆びている場合は使用を中止してください。
- ガソリン携行缶は、内容物の有無にかかわらず、直射日光が当たる場所、火や発熱体の近辺など高温の場所、雨・雪・湿気等の水分のかかる場所、ほこりの多い場所、化学性ガスの被害を受けやすい場所や転倒しやすい所、密閉した車内、室内で保管しないでください。
- ガソリン携行缶は亜鉛メッキ鋼板を使用しておりますが、使用環境、使用状況等により錆びが発生する場合があります。ご使用前に給油口よりガソリン携行缶内部の状況を確認し、錆び等異常が発生している場合は使用しないでください。
- 誤った使用方法、火災、地震、水害、その他天災地変、公害、塩害等による故障及び損傷については如何なる責任も負いかねます。又、ガソリン以外のシンナーや水等の使用は、塗装、パッキン材劣化、錆びの原因となりますので、使用を避けてください。
- 給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車・発電機等のエンジンを切ります。特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
- ガソリン携行缶使用前には必ず静電気を除去してください。人体に蓄積した静電気で引火し重大な事故が起こる場合があります。

注意 重要

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、及び物的（車両等）損害の発生が想定される内容を示しています。

- キャップ、給油ノズルの開閉時には、指等をはさまないように十分注意してください。
- ガソリン携行缶にガソリンを入れ車等で移動される時は、必ずポリエチレン袋又は、受け皿に置いて保管・移動してください。特にトラック等の荷台にのせて移動する際は、すべり止め（ゴムマット等）を利用して、ガソリン携行缶底部が損傷しないよう保護してください。
- ガソリン等が車体に付着した場合は、ただちにウエス等で拭き取ってください。
- 誤って皮膚に付いた場合は、ただちに石鹸等で十分に洗浄し、異常があれば医師の診察を受けてください。

- 屋内、車内、或いは、周辺を汚す恐れのある場所での給油には、給油ノズルが確実にねじ込まれていることを確認し、万が一、こぼれても周辺が汚れないように、又は、人体、周辺に危険を及ぼさない処置をした上で、ご使用ください。
- 長期間使用しなかった場合には、ガソリン携行缶本体、キャップ、給油ノズルを点検し、それぞれの部品に異常がないか確認した後、使用してください。
- お車・発電機等の給油口に、勢いよくガソリンを入れると吹きこぼれる場合があるので慎重に入れてください。
- 給油ノズル、パッキン、胴体モールディングは消耗品です。ご使用前に劣化していないか確認し、劣化が見られる場合は交換してください。

取り扱い注意


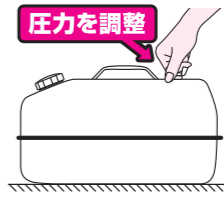

取り扱い時、注意する内容を示しています。


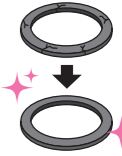
- ガソリン携行缶内部に錆び止め剤を吹き付けていますが、使用上には問題ありません。
- 空のガソリン携行缶を長期間保管する場合には、キャップをゆるめておいてください。パッキンの劣化を軽減することができます。




- ガソリン給油の際、こぼれたガソリンが胴体モールディングのすき間に入り、床等を濡らす恐れもありますので、すぐに拭き取ってください。
- ガソリン携行缶にガソリンが付着した場合、色落ちする恐れがありますので、すぐに拭き取ってください。

ご使用前に 本製品を使用する前に「キャップ、給油ノズル、エア調整ネジ等」確実に脱着できるか必ず確認してください。不具合があった場合はただちに使用を中止してください。

給油時及び使用後の注意 使用する前に準備する物：ウエス、手袋（車載する場合はトレイ、ポリ袋）

- ①ガソリンは非常に危険な液体です。給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車・発電機等のエンジンを切ります。特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
※静電気にはご注意ください。
エンジンストップ 
- ②傾きのない平らな所に置き、必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。
警告 内部の圧力を調整せずに給油キャップを開けると中身がふき出る恐れがあり非常に危険です。必ず圧力を調整してください。
圧力を調整 
- ③ゆっくりとキャップをはずし、給油ノズルを取り付けしっかり締めてください。こぼれたり、人体に付着しないよう注意深く、慎重に給油してください。
給油時にエア調整ネジを少しゆるめる 
※万が一の為、手袋等をはめることをおすすめします。

- ④給油後はウエス等できれいに拭き取ってください。ガソリン携行缶内にガソリンが残る場合は、キャップ・エア調整ネジをしっかりと確実に締めつけてください。
※空の状態では保管する場合はパッキンの劣化を防ぐ為、少しキャップをゆるめてください。
中身がある場合 **圧力を調整** 
- ⑤次回使用する際は、下記の手順を行い使用してください。
中身がない場合 給油前に、パッキン・キャップ・エア調整ネジ・給油ノズル・本体に損傷、内部に錆び・異常等がないか確認してください。劣化部品（特にパッキン等）はお取替えの上で使用してください。


- ガソリンにも水分が含まれています。ガソリンの長期保管は缶の内部が錆び、損傷する原因になり、缶が使用できなくなります。

- ガソリンも劣化します。長期保管したガソリンはエンジンに悪影響を与える恐れがありますので、使用しないでください。

- 少量のガソリンを残さないでください。ガソリンが気化し、内圧の変化で缶が変形する恐れがあります。


ガソリンスタンドでガソリンや軽油を容器で購入する際の注意事項

ガソリン購入時には本人確認、使用目的の確認を行うことが消防法で義務づけられています。
ガソリン携行缶に給油できるかどうかは、ガソリンスタンドの従業員にご確認ください。






■保管の危険性について

- ガソリンは、火災の発生危険が極めて高く、火災が発生すると爆発的に延焼拡大する為、ガソリンを容器に入れて保管することは極力控えてください。
- 軽油は、大量に保管すると、火災の発生危険が高まるとともに、火災が発生すると、大規模な火災となる危険性が高い為、大量保管することは極力控えてください。

■保管について

- 40L未満のガソリン又は200L未満の軽油を、消防法令の基準に適合した容器で、保管することができます。
- 40L以上200L未満のガソリン又は200L以上1000L未満の軽油を保管する場合は、市町村の火災予防条例により、消防機関に届け出ることが必要となります。
- 200L以上のガソリン又は1000L以上の軽油を保管する場合は消防法により、市町村等の許可が必要です。

※総務省消防庁危険物保安室の指導により。具体的な市町村長等の許可等の手続や市長村の火災予防条例については、お住まいやお勤め先のある自治体へお問い合わせ願います。

| ガソリン携行缶用補修部品 | | |
|---|---|--|
| 品番:FXOP-01  キャップ | 品番:FXOP-02  エア調整ネジ | 品番:FXOP-03 パッキンセット  エア調整ネジ用 給油ノズル用 |
| 給油ノズル  | 品番:FXOP-04 (長さ:約270mm) 品番:FXOP-05 (長さ:約560mm) | キャップ用  |

メルテック 大自工業株式会社 営業本部 〒582-0027 大阪府柏原市円明町1000-126 TEL.072-976-0101(代)
東京支社 〒170-0011 東京都豊島区池袋本町4-37-12-107 TEL.03-3590-6105
https://www.daiji.co.jp/ Eメール:info@daiji.co.jp

ガソリン携行缶の取り扱いガイド

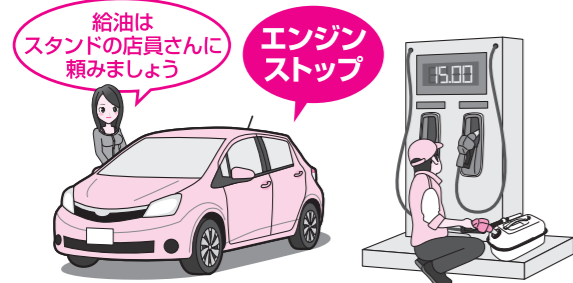
A ガソリン携行缶に給油するとき

- 1** 給油前に、パッキン・キャップ・エア調整ネジ・給油ノズル・本体に変形・亀裂・損傷・内部に錆び・異常等がないか確認してください。
 ※本体に変形・亀裂・損傷・内部が錆びている場合は使用を中止してください。



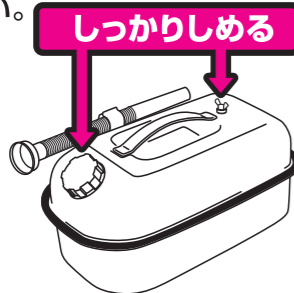
使用前にしっかり確認しましょう

- 2** 従業員のいる通常のガソリンスタンドで給油してください。
 ※静電気にはご注意ください。



警告 ガソリン購入時には本人確認、使用目的の確認を行うことが消防法で義務づけられています。ガソリン携行缶に給油できるかどうかは、ガソリンスタンドの従業員にご確認ください。

- 3** 給油後は、キャップ・エア調整ネジをしっかりしめて、もれがないか確認してください。



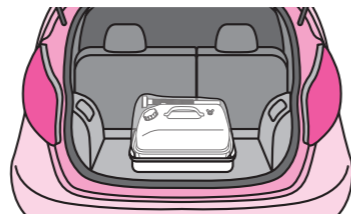
注意 給油量は、規定容量以内で給油してください。

注意 給油後は、中に何が入っているか誰が見ても判るように、付属のシール(ガソリン・軽油・灯油等)を目立つところに貼ってください。

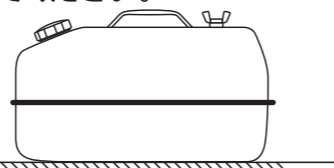


B 運搬または、運搬後保管するとき

- 1** 車載して運搬する場合は、必ずポリ袋に入れ、トレイ等の上に乗せてください。
 ※荷室内で移動しないよう、しっかり固定してください。

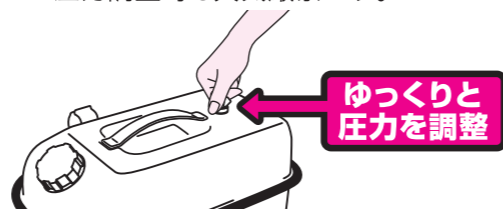


- 2** 安全で、傾きのない平らな場所で保管してください。



警告 車内や直射日光が当たる場所・火や発熱体の近辺等高温になる場所・雨雪が当たる場所・湿気が多い場所等はガソリンの揮発や缶本体の変形・亀裂・錆び等につながり大変危険です。お避けください。

- 3** ガソリンは揮発性が高い為、内圧の変化でガソリン携行缶が変形する恐れがあります。適時エア調整ネジをゆるめ、圧力を調整してください。
 ※圧力調整時も火気厳禁です。



注意 長期保管しないでください

- ・ガソリンも劣化します。長期保管したガソリンはエンジンに悪影響を及ぼす恐れがありますので使用しないでください。
- ・ガソリンにも水分が含まれています。長期保管をするとガソリン携行缶の錆びの要因になります。錆びている場合は、使用を中止してください。
- ・ガソリンによる内圧の変化で缶が変形を繰り返し亀裂等発生する場合があります。変形等している場合は使用を中止してください。



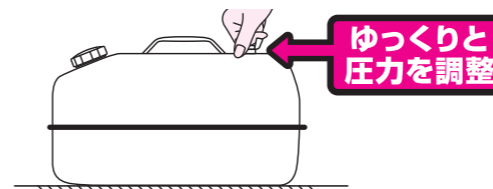
C ガソリン携行缶からお車や発電機等に給油するとき (ウエス、手袋を準備しましょう)

- 1** ガソリンは非常に危険な液体です。給油前に周囲の安全を必ず確認してください。給油されるお車・発電機等のエンジンを切ります。特に発電機や草刈り機等はエンジンを冷ましてください。
 ※静電気にはご注意ください。

エンジンストップ



- 2** 傾きのない平らな所に置き、必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。



警告 内部の圧力を調整せずに給油キャップを開けると中身がふき出る恐れがあり非常に危険です。必ず圧力を調整してください。

- 3** ゆっくりとキャップをはずし、給油ノズルを取り付けしっかりしめてください。こぼしたり、人体に付着しないよう注意深く、慎重に給油してください。
 ※万が一の為、手袋等をはめることをおすすめします。
 ※誤ってガソリン等が皮膚に付いた場合は、ただちに石鹸等で十分に洗浄しましょう。



注意 給油後はウエス等できれいに拭き取ってください。ガソリン携行缶内にガソリンが残る場合は、キャップ・エア調整ネジをしっかりと確実にしめてください。
 ※空の状態でも保管する場合は、パッキンの劣化を防ぐ為、少しキャップをゆるめてください。



D 次回ご使用になる場合の注意

ガソリンの危険性について

ガソリンは気温が-40℃でも気化し、小さな火源でも引火し、爆発的に燃焼する物質です(軽油は+40℃)。

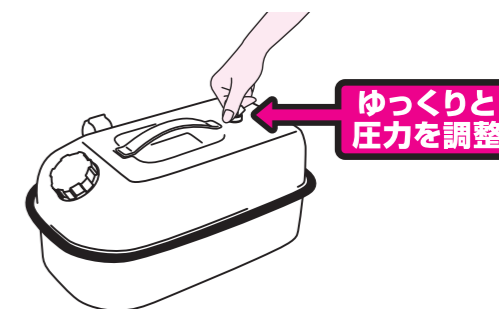
- 1** ガソリンは非常に揮発性が高く危険な液体であることを再度認識してください。



2-① 中身がある場合

使用前に必ずエア調整ネジで内部の圧力を調整してください。
 ※圧力を調整時も火気厳禁です。

左記A~Cに記載されていることを再度確認してください。



2-② 中身がない場合

左記A~Cに記載されていることを再度確認し、劣化部品(特にパッキン等)はお取替えの上で使用ください。

